2026.2.17 Vol.141

響（ひびき）

認定特定非営利活動法人
日本災害救援ボランティアネットワーク NVNAD
Newsletter

響想の社会をめざして

阪神・淡路大震災から31年の時が過ぎました。震災30年の際には、全国の被災地の皆様と交流させていただき、「震災31年目からが大切だ」というご意見を頂戴しました。そこで、NVNADでは、震災31年目に様々な事に挑戦して参りました。

まず、新しい取り組みとしまして、「NVNADゼミ」を開催しました。震災30年を迎える時には連続シンポジウムを開催し、毎回、災害対応について講師の方々と理事が議論を展開しました。31年目の今年度は、参加者してくださった皆様が講師を交えて、もっと密に話し合えるように少人数の“ゼミ形式”とし、グループワークを採り入れました。そして、「防災と言わない防災（ぼうさい探検隊）」、「救援活動の舞台裏」、「誰も取り残されない避難」、「長期にわたる復興」、そして、「これからこそ意義が深まる語り継ぎ」など、シンポジウムよりさらに一歩踏み込んだテーマを用意させて頂きました。様々な市民の皆様、団体の皆様にご参加頂きました。毎回とても熱心にご議論頂き、いつも時間が足りないような状態でした。震災32年目の来年度は、今回の振り返りや皆様のご希望を踏まえて、さらに深い話題提供と議論の場を準備したいと思います。年間プランが決まり次第、ご案内申し上げます。より多様な皆様をお迎えし、震災から続く想いを語り合える時間が持てることを楽しみにしております。

次に、かねてより企画して参りました「まちごと防災」がいよいよ動き出しました。それぞれの「まち毎」に異なる事情に合わせ、まちにお住まいの多様な方々が誰も取り残されず「まちごと」助かることを目指し、他人事ではなくわが「まち事」として展開する防災です。兵庫県尼崎市では民生委員の方々に向けて様々な防災活動を紹介させて頂き、徐々に地域を絞りながら、それぞれの地域に合った防災活動へと展開していきます。大阪府田尻町では、歴史と防災まちあるきから始めて、まちを改めて深く知り、外部からボランティアが駆けつけるような災害に見舞われた場合を想定して住民ができることについて実践を交えて話し合っているところです。NVNADとしましては、それぞれのまちに深く関わらせて頂きながら、じっくりと時間をかけて”ひと味違う“現実的な防災となるようお手伝いさせて頂いております。

震災32年目は、救援活動や被災地交流を継続しつつ、「NVNADゼミ」や「まちごと防災」を継続して参ります。地元西宮市での展開も改めて計画して参りたいと考えております。引き続き皆様からの温かいご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

NVNADゼミ

まちごと防災

contents

1　VISION117
2　西宮市市制100周年記念式典、子ども防災クラブ、甲子園音楽祭にブース参加
3　事業報告
4　事業計画
5　NVNADゼミ開催報告
6　能登半島支援·みこし担ぎにバルーンアート地域の祭りに参加(4·8·9·10·11月)
7　能登半島支援·出前プレーパークinのと～遊び」を通して繋がること～
8　Nうごき·Nごよみ·寄付者·編集後記

NVNAD HP

認定特定非営利活動法人日本災害救援ボランティアネットワーク（NVNAD）
662-0853 兵庫県西宮市津田町3-43　Tel.0798-34-9011 Fax.0798-34-9022
Email:nishinomiya@nvnad.or.jp　https://nvnad.or.jp/　発行人:渥美公秀

西宮市市制施行100周年記念式典が開催されました。

2025年4月20日、西宮市民会館のアミティ・ベイコムホールにて、「西宮市市制施行100周年記念式典」が開催されました。神戸女学院大学音楽学部による合唱にはじまり、市長式辞や来賓祝辞などに続いて、市制100周年記念西宮市感謝状贈呈があり、社会福祉協議会や子ども会協議会、連合自治会やライオンズクラブなど150を超える団体が受賞され、当団体も阪神・淡路大震災からこれまでの活動の実績を評価され、「都市の魅力・産業の部」で感謝状をいただきました。

子ども防災クラブ（Dクラブ）の活動報告

防災食のお話

防災ポンチョ作りに挑戦

懐中電灯とペットボトルでランタン作り

恒例となりました子ども防災クラブですが、今年度は新たに3年生が7名加わり、7月12日（土）、10月4日（土）、12月20日（土）に、西宮市立高木小学校にて実施しました。毎回、事前にリーダーの皆さんとプログラムを相談し、ペットボトルを使ってランタンやコピー用紙で紙食器を作ったり、あるいは、防災ゲームクロスロードやあったかフードBOXを使ってカレーを温める体験などを行いました。子どもたちにとって、自分たちで考えたり、何かを作ったりできる体験はいつも興味津々で、子どもたちが楽しめる防災プログラムをこれからも企画していきたいと思っています。

甲子園音楽祭で防災ブースを出展しました。

5月25日、阪神甲子園駅前広場にて、「甲子園音楽祭」が開催され、NVNADは、西宮市社会福祉協議会と関西学院大学ヒューマン・サービス支援室の3者で協働で「防災ブース」を出展させていただきました。内容は、被災地のことをまず知ってもらおうと、能登半島地震以降この3者で行ってきている石川県七尾市での支援活動の様子がわかる写真パネルの展示を行いました。また、西宮でもいつ大きな災害が起こるかもわからないので、災害を想定し、日頃から非常持ち出し袋に何を準備しておいたらいいか、用意した30種類ほどの防災グッズが描かれたイラストを、参加者に「自分なら何を備えたいか?」というテーマで、大人は上位10個、子どもは5個を選んでいただきました。終了後に集計したところ、「お水」「食料」「簡易トイレ」が上位3位に入りました。市民の皆さんと楽しみながら防災について考えるいい機会になったと思います。

関学生による防災セミナー

防災ブース

非常持ち出し袋に何を入れる?

事業報告

第27回NVNAD通常総会は、2025年6月15日西宮市において開催。提案された議案は原案通り承認され無事に終了しました。

Ⅰ.第26期(2024年度)事業報告
(2024.4.1~2025.3.31)

第26期(2024年度)を振り返ってみると、災害救援に関しては、2024年1月1日に発生した能登半島地震において、大阪大学や福知山公立大学、あるいは、関西学院大学などと連携して、輪島市や七尾市などを中心に、家屋の片付けや救援物資の提供をはじめ、避難所から仮設住宅に引っ越しされる方々のお手伝いや、地元の集会所などでの交流活動、あるいは、保育所や公園などで子どもの支援活動(出前プレーパーク)などに従事した。また、9月に発生した奥能登豪雨災害では、輪島市を中心に、泥のかき出し作業や子どものサポートなどを行った。

平常時の活動に関しては、活動の3本柱である①『講演・講座活動』では、主な依頼先としては、西宮市社会福祉協議会や岡町社会福祉協議会、近畿ろうきんや甲子園短期大学などから継続した講演依頼があり、新規としては西宮市老人会や無印良品阪急ガーデンズ店から依頼があった。②『防災まちづくり活動』では、新規事業として、西宮市から受託事業として、小学校や公民館などに設置されている防災倉庫内に保管されている西宮市所有の資機材の点検を45カ所で実施した。

ネットワーク事業としては、2025年1月に阪神・淡路大震災から30周年を迎えるにあたり、『あれから30年NVNAD2025プロジェクト　~みんなが助かる社会をめざして~』というタイトルで、市民を対象に「子どもと防災」や「障害者と防災」、あるいは「次世代から見た阪神・淡路大震災」などのテーマで、昨年度に引き続き日本損害保険協会から協賛の提供を受け計5回シンポジウムを西宮市内で開催した。また、日本損害保険協会から「小学生のぼうさい探検隊」の第一次審査の委託を受けた。その他の特記事項としては、2月には大阪マラソンのチャリティパートナーとしてチャリティランナーのサポートを行い、ボランティアの機運醸成に寄与した。

(活動事業実績)

1.災害に関する講演、講座事業　23回
2.防災まちづくり事業(ワークショップ事業)　18回
3.ネットワーク事業　7回
4.災害救援活動事業　24回
5.その他の活動　8回

Ⅱ.第26期(2024年度)決算並びに第27期予算

科　　目	第26期予算	第26期決算	第27期予算
Ⅰ.経常収益			
1.受取会費	670,000	629,000	600,000
2.受取寄付金	4,025,000	10,320,034	3,555,000
3.受取助成金	1,000,000	2,849,297	600,000
4.事業収益	3,403,000	3,560,935	1,933,000
5.その他収益	1,850	4,837	5,500
経常収益計	9,099,850	17,364,103	6,693,500
Ⅱ.経常費用			
1.事業費	14,055,838	16,433,305	10,741,618
2.管理費	776,702	826,422	561,402
経常費用計	14,832,540	17,259,727	11,303,020
税引前当期正味財産増減額	△5,732,690	104,376	△4,609,520
法人税、住民税及び事業税	82,000	82,000	82,000
当期正味財産増減額	△5,814,690	22,376	△4,691,520
前期繰越正味財産額	13,445,510	13,445,510	13,467,886
次期繰越正味財産合計	7,630,820	13,467,886	8,776,366

事業計画

Ⅲ.第27期(2025年度)事業計画(2025.4.1~2026.3.31)

災害支援関連では、令和6年能登半島地震の被災地である石川県能登半島に、引き続き継続した支援活動を行いたい。特に今年度は、七尾市や輪島市などを中心に集会所などでの交流活動や子どもたちの支援活動(出前プレーパーク)を予定している。また、コロナ禍で訪問を控えていた熊本地震や西日本豪雨災害などの被災地にも訪問したいと思っている。また、南海トラフ巨大地震など新たに大規模な災害が発生した場合に備え、体制についても並行して検討を重ねたいと思う。

平常時の活動については、これまで同様①防災まちづくり活動、②講座・講演活動、③ネットワーク活動の3本柱を掲げている。ただし、阪神・淡路大震災から30年が経過したこのタイミングで、31年目に向けてより充実した一歩を踏み出すために、少し時間をいただき、これまでの事業内容のふりかえりを行うのと同時に、新たな事務局体制の構築と、市民の防災・減災の啓発のためにより一層意義のある取り組みを考案していきたいと考えている。引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

Ⅰ.災害救援の活動

1.救援活動

(1)東日本大震災の支援活動
(岩手県野田村、福島県郡山市、など)

(2)兵庫県佐用町・丹波市水害の支援活動

(3)熊本地震・九州北部豪雨災害の支援活動

(4)西日本豪雨災害、台風19号豪雨災害の支援活動

(5)能登半島地震・奥能登豪雨災害の支援活動

(6)トルコ・シリア地震の支援活動

(7)ココロープの支援活動

Ⅱ.次の災害に備えるための防災(広報・啓発等)の活動

1.地域防災活動

(1)子ども支援事業(子ども防災クラブ、親子防災講座など)

(2)防災啓発事業

2.防災意識高揚のための取り込み

(1)災害や防災に関する講座・研修等の受託事業

(2)講演等の受託事業

3.ネットワークの拡充

(1)全国災害救援ネットワーク(Jネット)総会

(2)ひょうご市民活動協議会(愛称:ひょうごん)

(3)災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議
(兵庫県)

4.新規・継続事業‥収益(事業、会費、寄付など)を高めるために

(1)NVNAD連続ゼミの企画

(2)まちごと防災セミナーの企画

Ⅲ.災害救援準備金の取り扱い(2025.3.31現在)

緊急時の活動費用については、災害救援引当貯金から捻出する。

災害救援引当貯金の残高合計:932,779円

(内訳:近畿労働金庫は476,469円、NVNADは456,319円)

具体的な活動事例

まちごと防災2025の募集チラシ

まちごと防災2025において、
田尻町ふれ愛センターにて
プログラム説明

まち歩きで田尻町内の神社を訪問

新企画「NVNADゼミ」を開催しました。

「NVNADゼミ」は、NVNADが阪神・淡路大震災以降これまで国内外の被災地で学んできた事柄を広くお伝えしていく取り組みです。

長時間の講演と簡単な質疑応答という通常の形式ではなく、実際に現場で活躍されている皆様と直接対話しながらじっくりと学び合う形式で進めています。今年度は全5回シリーズで、防災、救援、復興、伝承など様々な場面を取り上げました。なお、第1回は日本損害保険協会にご協賛いただきました。

第1回:2025年7月31日(木)
テーマ:防災と言わない防災
話題提供者
八ッ塚としえ(ぼうさい探検隊提唱者)
寺本弘伸(NVNADスタッフ)
進行担当
渥美公秀(NVNAD理事長・大阪大学大学院教授)

第2回:2025年9月1日(月)
テーマ:災害救援の現場で実施に起こっていること
話題提供者
大門大朗(福知山公立大学)
関　嘉寛(関西学院大学)
谷一浩平(一般社団法人NOTORN)
進行担当
渥美公秀(NVNAD理事長)

第3回:2025年10月8日(水)
テーマ:安心して逃げることができる社会
話題提供者
宮川智明・秋田真・秋田優子(高知県黒潮町役場)
高橋和利(京都府福知山市役所)
進行担当
矢守克也(NVNAD理事)

第4回:2025年12月4日(木)
テーマ:災害から復興した?
話題提供者
山口洋典(立命館大学)
貫牛利一(チーム北リアス現地事務局長)
小野寺修一(岩手県野田村役場)
進行担当
渥美公秀(NVNAD理事長)

第5回:2026年1月8日(木)
テーマ:災害の体験を語り継ぐ「私たち」って?
話題提供者
長谷川元気・田村勝太郎(語り部KOBE1995)
進行担当
矢守克也(NVNAD理事)

内容は、当団体のフェイスブックから
ご確認ください。

能登半島支援

みこし担ぎにバルーンアート 地域の祭りに参加

2025年4月～11月・七尾市で支援・交流活動

【4月・9月・11月】

これまで「関西学院大学ヒューマン・サービス支援室（以下、HSCと呼ぶ）」を通じて、七尾市中島町で支援活動を一緒に行った学生の有志メンバーと一緒に、中島町豊川地区を訪問しました。

4月は、豊川地区で開催された復興行事「桜まつり」に参加しました。地元からのご依頼により、当日お祭り会場内で、学生メンバーと一緒にバルーンアートを作り、たくさんの子どもたちと交流することができました。

9月は、豊川地区で開催された「秋まつり」に参加させていただき、神輿をかついだり、太鼓を叩きました。地域の伝統のあるお祭りに参加させていただくことを通じて、皆さんのお祭りに対する熱い思いや大切にされていることを肌で感じることができ、本当に良かったと思います。

11月は、「関西学院大学災害コミュニティつむぎ」の学生メンバーと一緒に、豊川分館と仮設団地に行ってきました。

つむぎの学生メンバーは、今回が初めての者も多かったので、震災当時の様子をお聞きすると共に、クリスマスが近いということで、学生メンバー考案のクリスマスカード作りなどの企画で、仮設にお住いの方々と楽しいひと時を過ごすことができました。震災がきっかけではありますが、このように交流できる関係性がとても大切だと改めて実感しました。

豊川地区のみなさんと地域の魅力について語り合う

豊川地区の皆さんに、私達の訪問を大歓迎していただきました。

学生による バルーンアート

桜まつり

【8月・10月】

8月と10月は、HSC主催の現地ボランティア活動に、コーディネーターとして同行しました。主に、中島町の豊川分館と新町会館&仮設団地で活動しました。豊川分館では、地元住民から震災当時の様子をお聞きしたり、地元の神社の宮司さんから地域の歴史などについてお話をお伺いました。

また、新町会館と仮設団地では、集会所のスペースを利用して、いつものカフェスタイルをとって、お菓子や飲み物を飲みながらゆっくり会話を楽しんでいただくとともに、学生メンバーが企画した、風鈴やハロウィングッズ作り、あるいは子どもとの遊びコーナーや防災クイズ出題など、様々なプログラムを通じて、交流することができました。いつもご支援ご協力いただいてるHSC関係者の皆様にお礼申し上げます。

尚、能登半島地震の支援活動は、多くの皆様から当団体の寄せられた募金によって活動を実施させていただいています。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

豊川地区のみなさんと記念撮影

七尾市中島仮設集会所で交流会

能登半島支援

出前プレーパークinのと～「遊び」を通して繋がること～

NVNAD理事　米山清美

発災から2年が経つ能登半島地震ですが、子どもと遊びをキーワードに支援を続けてきました。被災地にとって必要な支援は、復興の段階や時期によって変化すると思いますが、子どもたちの笑顔を守り支援することは、常に心掛けたいと思っています。そのことは、ひいては地域の支援に、そして未来につながると思うからです。

そんな思いで「出前プレーパークinのと」を開催。今年度は子ども家庭庁からの補助はありませんでしたが、夏休みに小学校や保育園、仮設住宅で開催しました。

【夏休み出前プレーパークinのと】

2025年8月24日～27日の出前プレーパークは、感染症蔓延で中止となった輪島市かわい保育園に代わって、七尾市中島地区仮設住宅でも実施。その他七尾市中島小学校、中島保育所でも子ども達と交流してきました。仮設住宅では、急遽訪れたにもかかわらず、小学生たちと輪投げやストラックアウトに興じてくださいました。今回、西宮の子ども達は国有地プレーパークで開催した夏祭り（自分たちが企画運営した）での遊びを出前。幼児や小学生だけでなく、お年寄りたちにも喜ばれました。

その後、西宮の子ども達は各出前先にお礼の手紙を書き、直接それを届けました。

西宮の子どもたちによるお礼の手紙

支援から交流へ

西宮の子どもたちが、お礼の手紙に託した想いが・・・・

七尾市立中島小学校で

【支援ネットワーク会議】

昨年度の助成を受けた団体として子ども家庭庁から案内を受け、石川県主催「子どもの居場所づくり支援ネットワーク会議」に7月と10月に参加しました。そこでは石川県内の被災市町、そして様々な支援団体と繋がることが出来ました。会議担当課（石川県健康福祉部少子化対策監室子ども健全育成グループ）の担当者からはその後も情報を頂き、昨年末には被災市町や団体のボランティア募集なども掲載されたポータルサイトの周知も依頼されました。

そして10月22日の会議で、珠洲市の子育て支援団体から「出前プレーパークに来てほしい」と依頼を受け、今補助金などを探るとともに春休みに計画を立てようとしています。また、岩手県野田村と西宮市、そして能登の中学生を繋ぐオンライン交流会では、昨年に続き七尾市からも参加。

支援から交流へと繋がっていこうとしています。

輪島市での石川県主催の支援者会議

七尾市中島仮設集会所で

Nうごき

NVNAD 2025年4月～12月の活動

4月 12~13日 中島町桜まつり(石川県七尾市)
20日 西宮市市制100周年記念式典(西宮市)
5月 24日 NVNAD会計監査(西宮市)
25日 甲子園音楽祭に防災ブース出展(西宮市)
29日 災害ボランティア養成講座@関学(西宮市)
6月 6日 近畿労働金庫贈呈式(大阪市)
7~8日 関学現地ボランティアに同行(七尾市)
15日 NVNAD通常総会(西宮市)
22日 音楽コンサートに参加(宝塚市)
7月 8日 近畿ろうきん講座(豊中市)7/14(明石市)、10/5(神戸市)、10/21(吹田市)
12日 第1回子ども防災クラブ(西宮市)、第2回10/4、第3回12/20
31日 第1回NVNADゼミ(西宮市)
8月 8~10日 関学現地ボランティアに同行(七尾市)
18･19日 ブロック合同研修会(尼崎市)
24~27日 出前プレーパーク@能登(輪島市･七尾市)
9月 1日 第2回NVNADゼミ(西宮市)
13日 災害ボランティア養成講座(東大阪市)ブロック研修会(尼崎市)
26日 ボランティア講演(甲子園短大)
27~28日 秋祭り参加(七尾市)
10月 8日 第3回NVNADゼミ(西宮市)
11~12日 関学現地ボランティアに同行(七尾市)
11月22~23日 能登半島地震支援活動(七尾市)
25日 防災訓練に参加(吹田市)
26日 災害ボランティア養成講座@関学(西宮市)
12月 4日 第4回NVNADゼミ(西宮市)
6日 災害ボランティア養成講座(大阪府岬町)
7日 防災･減災を考える実行委員会(西宮市)
13日 災害ボランティア養成講座(西宮市山口町)
1月 8日 第5回NVNADゼミ
17日 1.17被災地交流会
24日 災害ボランティア養成講座(西宮市)
25日 2025まちごと防災in田尻町(大阪府田尻町)

Nごよみ

今後の予定･講演などのスケジュール

2026年
2月 15日 2025まちごと防災in田尻町(大阪府田尻町)
20~22日 大阪マラソン
3月 15日 2025まちごと防災in田尻町(大阪府田尻町)

会員･寄付者･募金者のみなさま(順不同、敬称略) 2025年4月1日～2025年12月31日

■会員の皆さま

正会員:「継続」

荻原迪子、花岡豊、魚島侑子、桐山裕文、山下佳子、舟知正、松本清子、森川博雄、真如苑、中村昌泰、田中正秀、日本労働組合総連合会大阪府連合会、八ツ塚としえ、片岡幸壱、矢守恭代、林 幹高、齊藤秀子

賛助会員:「継続」

株式会社京佐興産、御内眞理(ふぁんきぃ☆かんぱにー)、御舩鋼、三浪治子、山田明子、山田和子、志賀龍二、狩野順子、狩野宣敬、小栗優子、小溝健二、松山晋也、石川智子、谷原和憲、竹下養子、中井亜沙美、中山正裕、長野理恵子、田中稔昭、渡邊一正、渡邊朝子、渡邊鶴予、二宮英夫、八ツ塚一郎、武田育子、平川りつ子、野村めぐみ、鈴木憲一

■寄付者の皆さま

OSUSO、うえだまゆみ、ソフトバンク(かざして募金)、ペンスティーブン アントニウス、ヤフー株式会社、稲田和彦(ショットバーアイラ)、栄屋乳業株式会社野田篤文、岡秀和、掛水須美枝、株式会社日本触媒、丸山和之、吉田智明、弓削誠、魚島侑子、鏡孝文、玉川有理佐、近畿ろうきん、古谷伊久雄、古塚純枝、戸口京子、戸口始、戸口裕子、荒木正澄、高椋準司、三好由起、三澤佳代、山下佳子、山口裕子、山盛雅博、山田明子、山田和子、山内孝敏、山本千佳、市居篤志、舟知正、小溝健二、上野恵美、西村桂子、西内聖貴、青野哲治、石井香織、石川裕大、船越果那、前田あづさ、大塚黄司、大塚雅史、大塚潤子、大塚貞人、大塚博人、大塚美和、大内美菜子、中川朋代、中川隆司、中村三佐子、中野美咲、忠内正通、田沼純雄、渡邊鶴予、二宮英夫、一般社団法人日本損害保険協会、萩原誠、白井啓子、尾崎真平、福井景子、福留ゆか、片岡志喜、北林孝子、牧野宗次、網家早由里、木全奈津希、濱中あづさ、濱中健児、鎭西まゆみ

■募金者の皆さま

両国哲夫

■ご協力いただいた皆さま

株式会社フェリシモ、株式会社髙山堂、子育ちサポートひぴぽ、関西学院大学ヒューマン･サービス支援室、社会福祉法人西宮市社会福祉協議会

皆さまのご支援ご協力に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。尚、お振込みくださった方につきましては、振込名でご紹介させていただきましたのでご了承ください。

編集後記

今年1月17日で阪神･淡路大震災から31年が経過しました。震災当時のことを知っている西宮市職員は20%を切ったそうです。最近、北海道や東北、あるいは関東や九州など、日本各地で地震が続いています。「明日は我が地域」と思って、改めて日頃の備えを心がけていきたいですね。なお今号から、本職がデザイナーの萩野茂樹理事が紙面のデザインを担当します(H.T)